

特別セミナー

演題：日本「再創造」～「プラチナ社会」の実現に向けて

講師：小宮山宏先生



第1回常務理事会・理事会合同会議に続いて、小宮山宏先生(プラチナ構想ネットワーク会長・一般社団法人スマートプロジェクト会長・株式会社三菱総合研究所理事長・東京大学前総長)による特別セミナーが行われました。

日本の経済は量的に飽和状態を迎え、生活の質の向上が求められています。また世界の中でいち早く高齢化やエネルギー危機など様々な問題を経験しています。小宮山先生は過去様々な問題を克服してきた日本が“課題先進国”となった今、世界に先駆けて諸課題を解決することが、日本再生のチャンスであるとおっしゃっています。

本セミナーの内容を要約すると以下の通りとなります。

① 世界の現状

「我々が生きている21世紀とは何なのか？」

【産業の変化】

産業の中心が生活必需品(農業)であった1800年頃までは国家間に一人当たりGDPの差はほとんどなかった。これは1人あたりの食べる量は一定なので、農業が主産業の下ではGDPに差がつかなかったためである。ここまでは「人類みな貧しい」という時代であった。この状況を急激に変えたのが、1800年頃に起こった産業革命だ。産業革命により

生産力を極端に高めた国が先進国となり、豊かになった。そして産業革命をやらなかった国は途上国となり、そのほとんどが植民地になった。ここで国家間に大きな貧富の差が生じたのである。

そして近年途上国が発展してきたため、豊かさの世界平均が上がり、先進国との差が小さくなってきた。過去とは異なり、全体が豊かなレベルで均一化に向かっているのである。

日本にとって重要なことは、このような流れの中で自分の立ち位置を見つけることである。

【長寿化】

世界の平均寿命は、西暦1000年で24歳、100年前の1900年でも31歳だった。ほとんどの人は食うや食わずの生活で、医療の恩恵にあずかることができたのもごく一握りに限られていた。

現在世界の平均寿命は68歳になった。これは世界でそれだけ食べられる人、医療技術にアクセスできる人が増えてきたということを意味する。長寿で豊かな人が増えてきたというのは、文明が成功したからに他ならない。そして文明の成功による長寿社会をいかに活力あるものにしていくかが次の成長戦略の鍵となる。

【人工物の飽和】

豊かになった先進国では物が飽和状態にある。物が満ち足りて人口が増えないために買い替え需要の分だけしか物が売れない。これが先進国の需要不足の本質である。

したがって企業が物資の飽和状態にない途上国に進出することは当面の成長戦略として妥当だ。しかしこれも近い将来に飽和状態に陥るため、次世代にも通用する成長戦略ではないと予見できる。

【エネルギー問題】

鉱物資源は、人工物の飽和が進むにつれ需要は落ちてくる。しかしエネルギー資源は、人間が生きている限り永久に必要とする。

現在、エネルギーの8割を占める化石資源は、21世紀中には枯渇する可能性が高い。ここで重要となるのが省エネルギーである。生活のクオリティを維持あるいは高めながら、エネルギー消費を減らしていくことが重要だ。

② 日本再発見

「日本はこれまで様々な課題を克服してきた課題解決先進国である」

【西欧以外唯一の先進国】

日本は1868年に明治維新で開国してから一気に先進国に昇りつめた。遅れていた産業革命を起こし、工業化をどんどん進めることで、先進国に仲間入りをした。

【公害の発生と克服】

日本は狭い国で一気に工業化を行ったため、その過程において1960年台に公害を経験した。しかしそれを克服した。公害を克服したことは、日本の誇るべき歴史だ。

【エネルギー危機と効率化】

日本は1970年代に二度のエネルギー危機があり、石油の値段が20倍に跳ね上がった。石油を100%輸入に頼っていた日本は、各産業で必死になってエネルギーの効率化をはかることで、エネルギー危機を乗り切っただけでなく、世界一の産業を創ったのだ。このようにピンチをチャンスに変えた実績も、日本の誇るべき点の1つである。

【課題解決の実績のある課題先進国】

人類の文明はある程度成功したが、その結果として様々な課題を抱えている。それを世界に先んじて抱えているのが日本で、これまでの様々な課題を克服してきた。

日本が解決してきた課題や抱えている課題は、先進国共通の課題であり、途上国が今後直面する問題だ。だから日本がこれらの課題をいち早く解決し、世界にモデルを提供することが、課題解決先進国になることを意味する。

③ 21世紀のビジョン

「プラチナ社会の構築へ」

【量から質へ】

「衣食住・移動・情報・長寿」は過去には一握りの人が享受できた特権であったが、現代の先進国では一般市民が手に入れることができるようになった。そして21世紀前半には世界に行き渡るだろう。この現状を理解して、それに伴う課題をいかに解決するかがこれからの成長戦略のポイントだ。環境問題や高齢社会の問題を高いレベルで解決し、「衣食住・移動・情報・長寿」の充足を量から質にシフトすることが、21世紀モデル=「プラチナ社会」と言える。

【質の具体化】

1つは美しい生態系だ。

公害を克服したが、生物の多様性はまだ復活していない。多様な生態系が存在する美しい自然を





創ることがプラチナ社会の条件の1つだ。

2つ目は省エネルギー問題である。

日本の製品を売って資源を輸入するという成長モデルは、一次資源が安い20世紀であったからこそ成り立っていた。しかし資源がどんどん高くなり、このモデルは立ち行かなくなる。したがって、より合理的なモデルである省エネにシフトチェンジし、課題解決を行うことは日本にとっても必要であり、これから世界で起こる課題を率先して解決することが、日本が課題解決先進国として進むべき道だ。

既存のエネルギー消費を省エネで減らし、新エネルギーを増やしていけば、エネルギー自給率70%という国を創ることが、2050年には十分可能だ。

3つ目は健康寿命の延伸だ。

豊かになり、長生きできるようになったが、長期介護が必要になっている人も調査によると19%いる。今後は健康に長生きできるような社会を目指すべきである。

【課題解決先進国へ】

日本が課題解決先進国として、世界をリードしていくためには、これら具体的な課題解決ニーズを実際に産業として活用し、発展させることが重要だ。いくらいいものを作っても、市場に出して、使ってもらい、改良しないと課題解決につながらない。また市民生活に普及させないとイノベーションにならない。今後日本は量から質の転換に向けた課題解決先進国となり、世界を引っ張っていくことが必要だ。